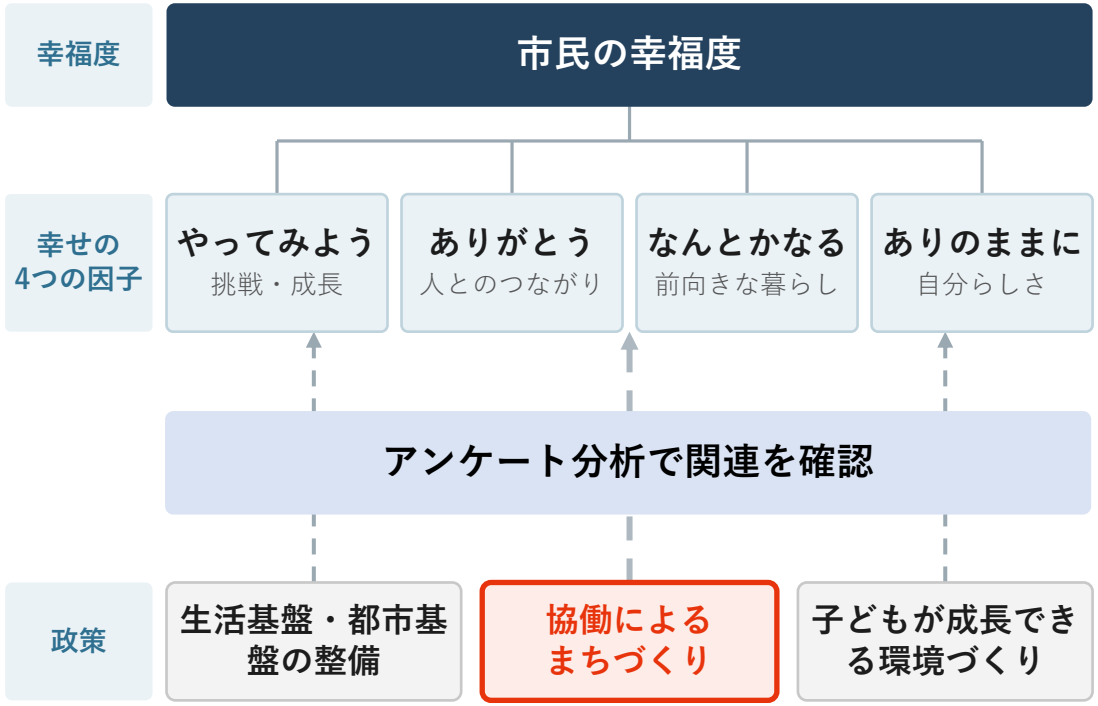
参考資料１
ウェルビーイング分析及び評価の考え方

1.市民アンケート分析に基づく、幸福度と政策のつながりの整理

・市民アンケートの分析から、身近に居場所があることなどが「幸せの４つの因子」と関連していることを確認しました。この結果を基に、各政策と市民の幸せとのつながりを整理し、幸福度の向上に向けて政策を推進します。
・各政策と４つの因子との関わりを、星の数で示します。また、毎年のアンケートを通じて、暮らしの充実や幸福度の変化を確認し、取組の改善につなげます。

アンケート分析結果と政策の対応



例：協働によるまちづくり　→　居場所の実感　→　幸せの4つの因子
居場所がある人ほど、幸せの4つの因子の得点が高い傾向

政策別に整理

政策ごとのつながりを一覧に

政策 × 幸せの4つの因子

以下は表示方法の仮例

政策（例）	やってみよう	ありがとう	なんとかなる	ありのままに
協働によるまちづくり	★★★	★★★	★★★	★★★
生活基盤・都市基盤の整備	★★★	★★	★★★	★★
子どもが成長できる環境づくり	★★★	★★★	★★★	★★★

暮らしの要素への働きかけを通じた、
各政策と幸せのつながりを示します。

政策の推進による暮らしの充実が、市民の幸福度の向上につながっているかを、毎年の調査を通じて検証します。

2.市民が感じる政策の改善実感と幸福度を用いた、政策・施策の評価方法

・毎年の市民アンケートで、政策の改善実感と「幸せの4つの因子」を把握し、年度ごとの変化や、改善を実感する人ほど幸福度が高い傾向にあるかを、政策・施策ごとに確認します。
・その結果を取組の実績と合わせて評価し、翌年度の取組の見直しにつなげ、PDCAを回すための判断材料とします。
・具体的な調査・分析手法は、市全体の平均値等による比較や、同じ方に継続して回答いただき変化を追う方法などを含め、今後検討します。

1 毎年把握する

政策の改善実感

この1年で、良くなったと感じるか

施策について5段階で回答

幸せの4つの因子

毎年、同じ質問で把握

やってみよう／ありがとう

なんとかなる／ありのままに

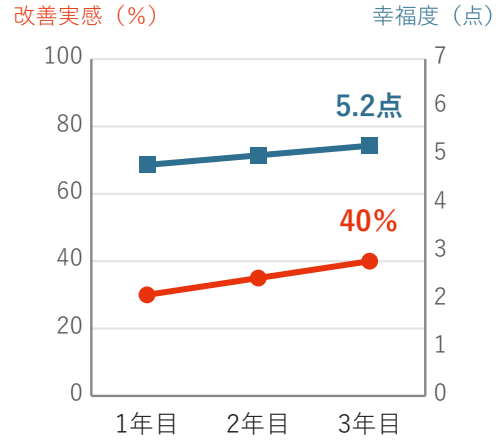
回答者ごとの、2つの回答を組み合わせて集計

2 2つの視点で関係を確認する

政策・数値は説明用の仮例

A 年度ごとの変化を見る

改善実感と幸福度の推移



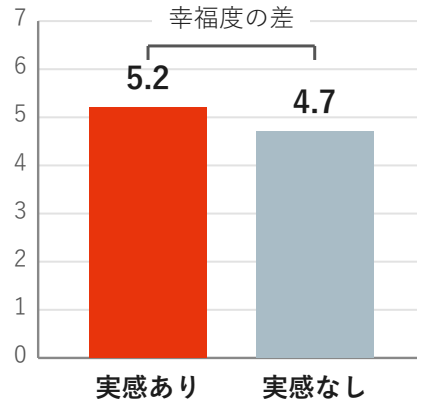
各年度の市全体の結果を比較

改善実感と幸福度が、どのように変化しているか

B 改善実感の有無で比べる

同じ年度の回答者を比較

幸福度の平均（7点満点）



実感あり＝5段階の4・5、実感なし＝1～3（説明用の仮定）

改善を実感する人ほど、幸福度が高いか

3 見直しに生かす

改善が実感されているか

幸福度との関連が見られるか

取組の実績も合わせて確認

取組内容や周知方法を検討

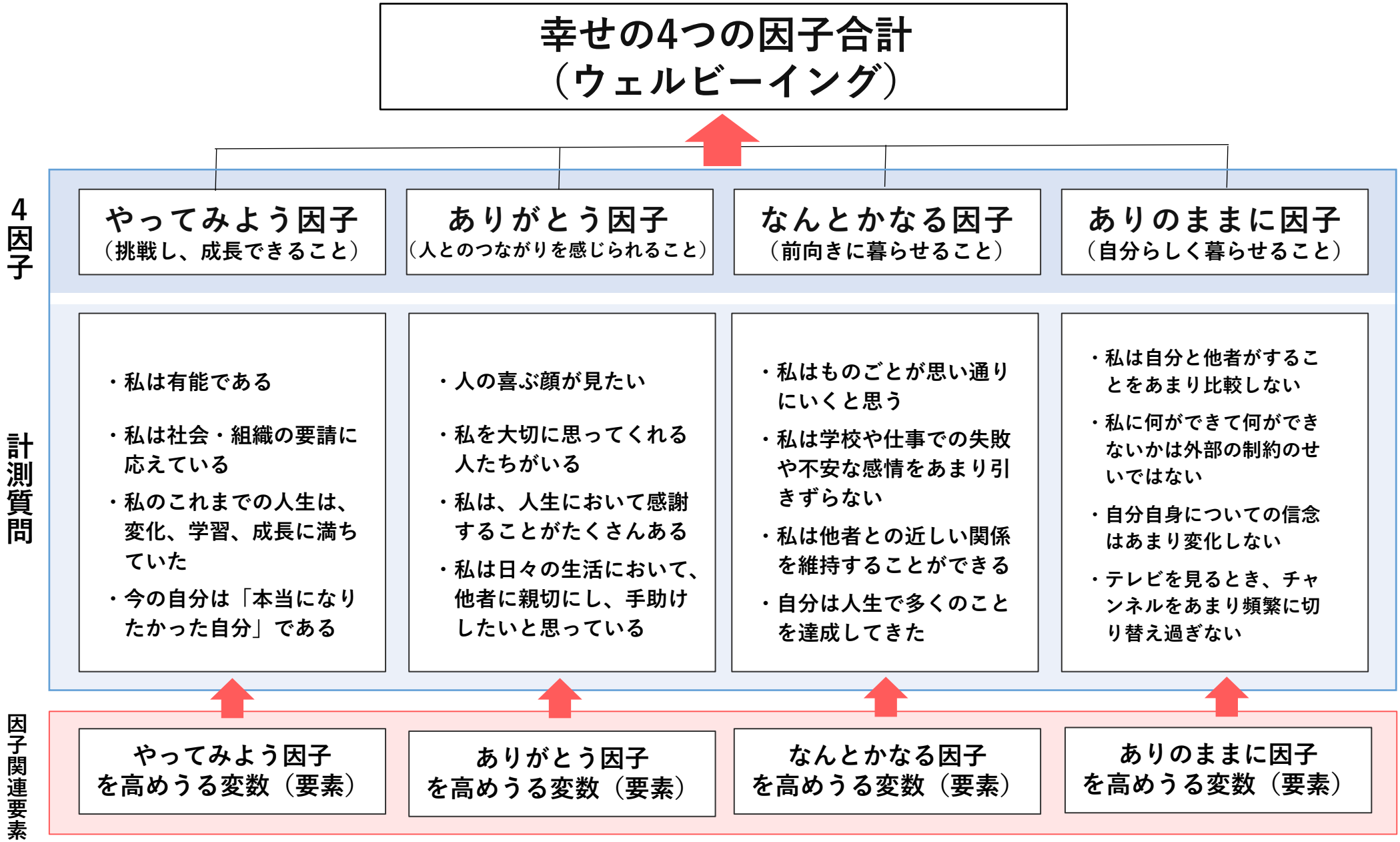
政策本来の目的や実績も踏まえ、総合的に検討します。

政策ごとに改善実感と幸福度の関連を確認し、翌年度の取組に反映します。

※経年変化や群間の差だけで、政策の効果を断定するものではありません。

（参考資料）　浜田市のウェルビーイングの捉え方

・浜田市のウェルビーイングは、市民アンケートから把握した前野隆司教授の「幸せの4つの因子」と各因子に関連する要素を基礎とし、関連要素への働きかけを通じて4因子の向上を図ることで、市民のウェルビーイング向上につなげていく考え方として整理します。

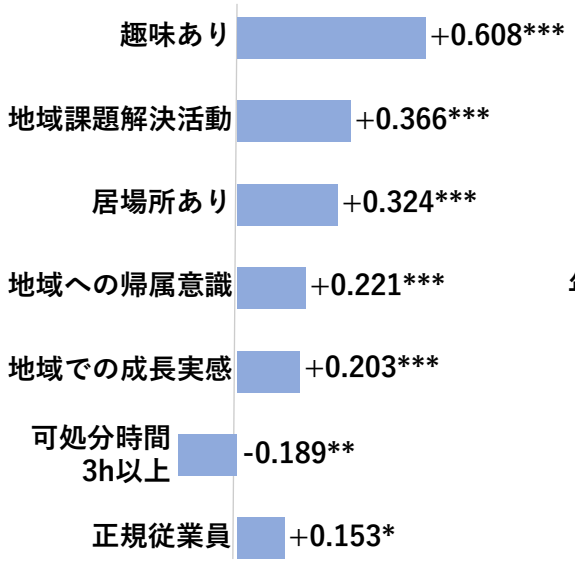


（参考資料）　重回帰分析による各因子との関連要因の探索結果

・市民アンケートを用いた重回帰分析により、「幸せの4つの因子」それぞれと関連する要因を探索した結果、「趣味」「居場所」「地域活動」など、日常生活や地域との関わりに関する要因が複数の因子と関連していることが確認されました。
これらの関連要因と既存施策との対応関係を整理し、4因子の向上に向けた施策のあり方を検討します。

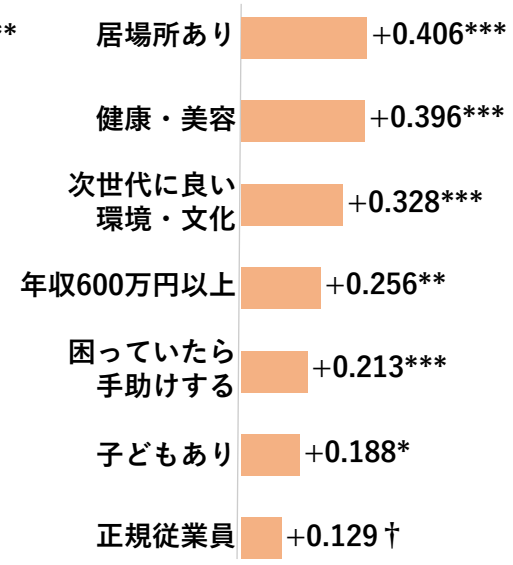
やってみよう因子
（挑戦し、成長できること）

調整済R^2=0.253



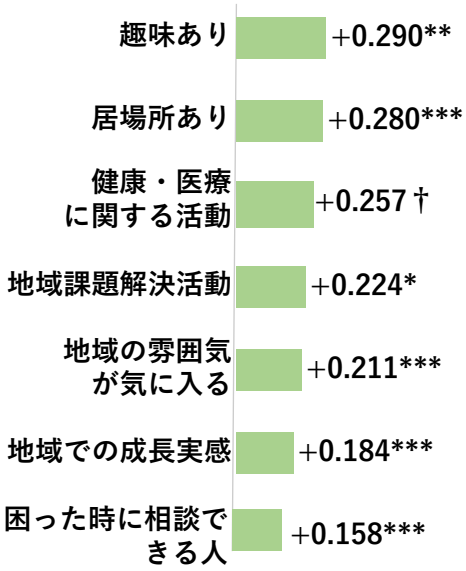
ありがとう因子
（人とのつながりを感じられること）

調整済R^2=0.331



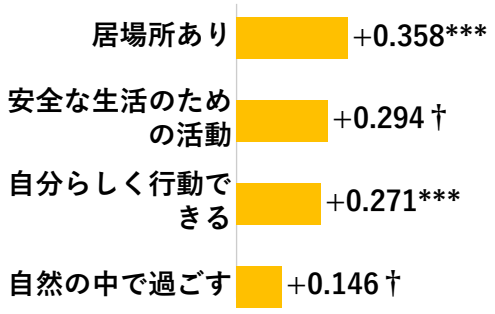
なんとかなる因子
（前向きに暮らせること）

調整済R^2=0.265



ありのままに因子
（自分らしく暮らせること）

調整済R^2=0.067



「ありのままに因子」については、今回把握した関連要因による説明力は限定的であり、今回の設問では捉えきれていない要因が大きいと考えられる。

グラフの見方

・数値は**標準化偏回帰係数（β）**を示しています。
・βの絶対値が大きいほど、他の要因を考慮しても因子との関連が強いことを示します。
・正の値（＋）：その因子にプラスの関連　／　負の値（－）：その因子にマイナスの関連

※ 調整済R^2：モデルの説明力を示す指標（値が大きいほど、因子をよく説明できていることを示す）
※ 統計的有意水準は、***：$p<0.001$、**：$p<0.01$、*：$p<0.05$、†：$p<0.10$（10%水準で有意）を示す。記号が多いほど、偶然では起こりにくい関連であることを示す。
※βの大きさは関連の強さを示すものであり、施策効果や政策上の優先順位を直接示すものではありません。